Mitutoyo

株式会社ミツトヨ

連絡先　研究開発本部　知的財産管理課　植田
電話　044-822-5487
Mail　kenji_ueda@mitutoyo.co.jp
URL http://www.mitutoyo.co.jp

保有シーズの特徴

基礎研究部門、商品開発部門、製造現場から生み出される技術で、比較的商品化に取り組み易い技術を中心に、ライセンス可能なシーズとして約50件を選出しております。毎年5件程度のペースで入れ替えしていく予定です。なお、弊社のライセンスポリシーとして競合他社（製品）へのライセンスは原則行いません。

保有シーズの領域

弊社の保有シーズの領域は、機械加工の製造技術、電気・電子、光学、計測・センサー、試験機器、ソフトウェアなど、多岐にわたります。

©2022 Mitutoyo Corporation

社長メッセージ

信頼のブランドであり続けるために。

ミツトヨは1934年の創業以来「測ること」と向き合い続けてきました。
精密測定は、何よりも信頼性がすべてです。
だからこそ、当社の商品は常に品質を第一に考え、「精密測定で社会に貢献する」ことを経営理念に掲げ、いつの時代もひたすらそのポリシーを徹底し、おかげさまで数多くの現場でご愛用いただいております。

世界中のお客様から「測定のミツトヨ」としてご評価いただけているということ。
測定に関してお困りの際に、ミツトヨを想起いただけるということ。

その事実は、私たちにとって言うまでもなく無上の喜びです。

2034年に迎える100周年に向けて「ミツトヨVision100」をスタートしました。
これからのミツトヨは自らの手で「これまでのミツトヨ」のイメージを塗り変え、お客様の期待を超える存在、「未来を提案するソリューションカンパニー」を目指します。

「こんな問題までミツトヨに相談できるとは思ってもみなかった」
そんな驚きと感動を、これからのミツトヨは提案していきたいと考えます。

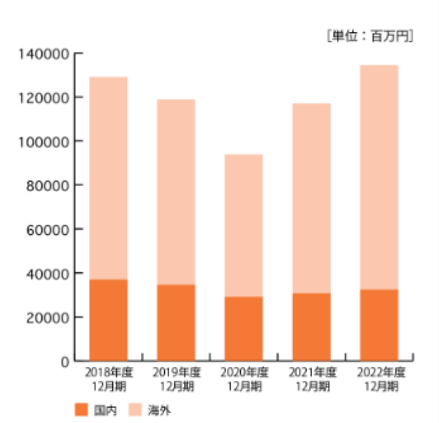
ミツトヨは変わり続けます。
自ら新しい変化を生み出し、お客様へ次の価値を提案していきます。
新しいミツトヨにご期待いただければ幸いです。

代表取締役社長　沼田　恵明

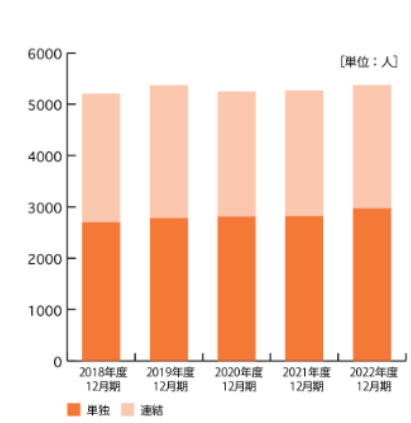
企業データ（2022年12月現在）

商号	株式会社 ミツトヨ（Mitutoyo Corporation）
本社所在地	〒213-8533　神奈川県川崎市高津区坂戸1-20-1
創立	1934年（昭和9年）10月22日
資本金	391百万円
自己資本	単独 159,754百万円（自己資本比率81.9%） 連結 221,528万円（自己資本比率79.2%）
単独売上高	84,476百万円
連結売上高	134,445百万円 連結対象：日本5社、欧州19社、アジア13社、北米・中南米7社（計44社）
事業内容	精密測定機器の製造・販売
従業員数	単独 2,971名 ／ 連結 5,374名
代表取締役社長	沼田　恵明
主要取引銀行	みずほ銀行　三菱UFJ銀行　三井住友銀行　横浜銀行
適格請求書発行事業者登録番号	T7020001067105

連結売上



従業員数



ミツトヨのものづくりを支える“生命線”

世界トップレベルの研究開発施設と、先進的な生産設備を装備させた自社工場。
そして確かな知識と経験をもつ技術者たちによって、ミツトヨの技術力は支えられています。

川崎工場

ミツトヨ本社に併設された川崎工場は、1940年に設立された歴史ある生産拠点であり、高倍率測定機、対物レンズ・光学機器、レーザスキャンマイクロメータ、精密センサなど数多くの製品を生産しています。また、同敷地内には開発拠点もあり、新製品のパイロット工場としての役割も有しています。

宇都宮地区　測器工場 / MC工場 / 清原工場

宇都宮市で1944年に操業を開始し、下荒地区（10万㎡）で測器工場（ノギス、ハイトゲージ）、MC工場（三次元測定機、大形高倍率測定機）が稼働しています。2020年には「M³ Solution Center UTSUNOMIYA & Calibration Lab」を新たに併設し、ものづくり現場との連携によるソリューション提案拠点となっています。また、11km離れた清原工業団地の一角（3.4万㎡）で1982年から清原工場（リニヤスケール、電装モジュール）が重要部品工場として稼働しています。

広島地区　呉工場 / 志和工場 / 郷原工場

瀬戸内海を望む、広島県呉市を中心とした3つの拠点で事業展開。呉工場（光学測定機や接触・非接触の形状測定機など）、志和工場（マイクロメータの一貫生産）、郷原工場（精密部品の素材供給）から構成され、世界へミツトヨの技術を発信しています。

中津川工場

ダイヤルゲージ、テストインジケータ、デジマチックインジケータ等のインジケータ類の専門工場として、岐阜県中津川市で1997年より操業開始。自動車や工作機械の生産が盛んな中部地区で、「お客様に近い」という利点を活かし、高性能かつ高品質な測定機器を生産しています。

宮崎工場

ゲージブロック等基準器の専門工場として、宮崎市田野町で1985年より操業開始。ゲージブロックに要求されるナノメートルの精度を実現するため、地下精密測定室に自社製光波干渉計を設置。世界トップレベルの品質を誇る工場です。

研究開発本部

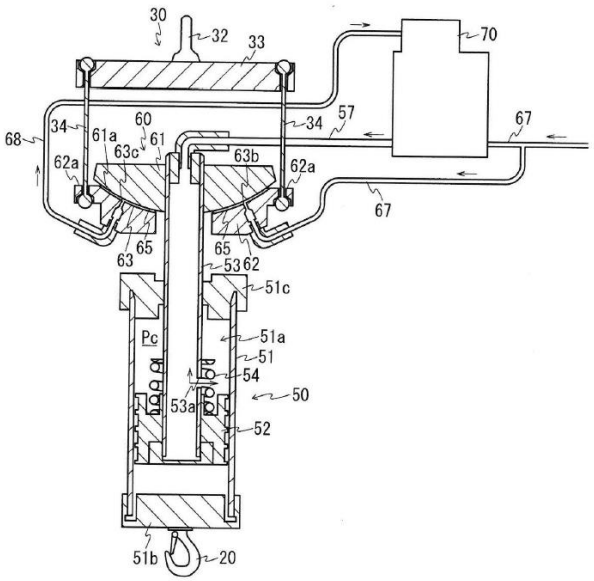
ミツトヨでは、ワールドワイドな協力体制の下、各開発拠点の高度な専門性を駆使してお客様の問題解決に貢献する先端技術開発と新商品開発を行っています。研究開発本部はグローバル開発体制の中心的拠点として位置づけられており、数値商品開発部、機器商品開発部、測器開発部、ソフトウェア開発部、ディバイス技術開発部、計測技術開発部、工業デザイン室、開発管理部で構成されています。

①シーズ名：「吊持用バランス装置」

特開2023－108867

利用シーン（展開可能分野）

吊持して運搬される重量物を静かに目的の場所に載置させるバランス装置。
バランスされている状態に対して手動で力を加えることで静かに下降、または、上昇させることが可能。手を離すとその時点でバランスを取ってその位置に留めることが可能。



発明の効果
（新規性・優位性）

圧縮エアーの供給のみで自動でバランスを取る。電気によるセンサーやモーターなど、電気は一切使用しない。

想定するライセンシー像
（保有技術や事業領域）

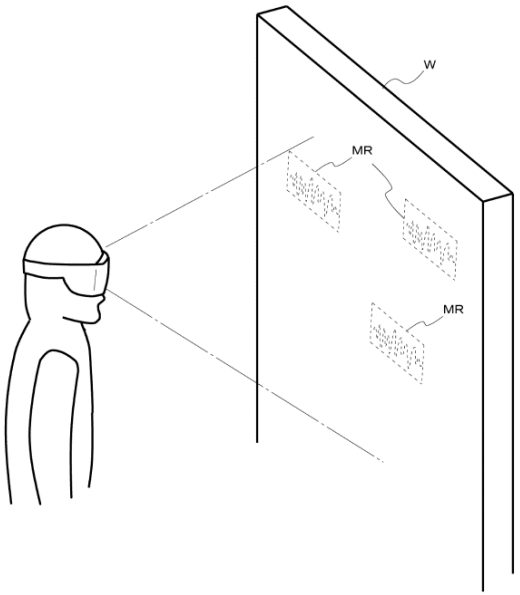
重量物、精密機器、壊れやすいものを安全に移動して設置するのに適している。

②シーズ名：「音響測定装置」

特許第7295732号

利用シーン（展開可能分野）

音（打音、異動作動音等）を利用して、コンクリート材やアスファルト等の構造物の検査、屋外、屋内を含む空間（工場、オフィス等）で発生する異音をGNSSで座標位置を特定したヘッドマウントディスプレイで3D可視化して検査をやりやすくするための音響測定装置。



発明の効果
（新規性・優位性）

異音発生個所を3D可視化できるので、構造物の検査が容易になる。

想定するライセンシー像
（保有技術や事業領域）

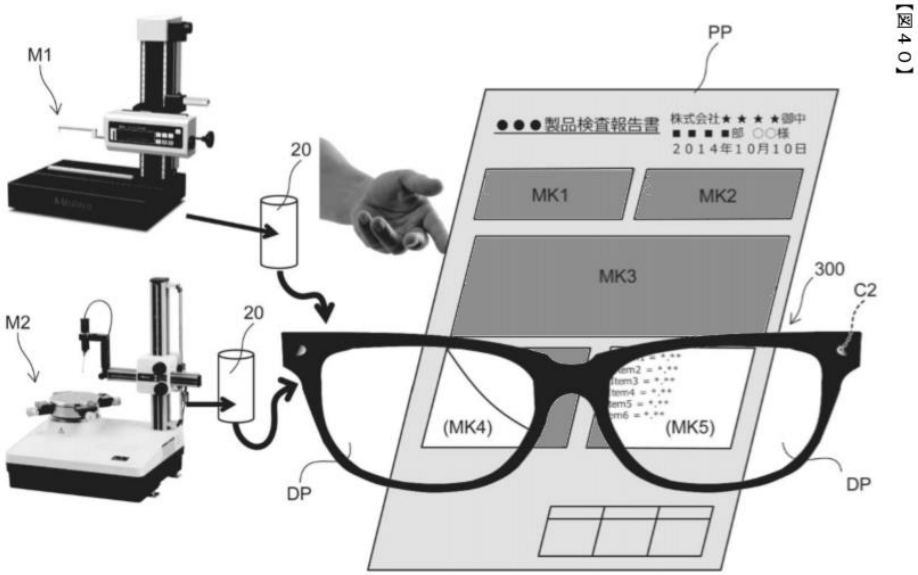
音を利用したコンクリート材やアスファルト等の構造物、特にビルや路面、橋の定期検査を効率化する。

③シーズ名：「ARマーカ認識レポート作成システム」

特許第6653526号他3件

利用シーン（展開可能分野）

ARデバイスのカメラで撮影された背景に付されたマーカを自動認識し、このマーカに対応する測定結果を背景画像（映像）に合成表示する。



発明の効果
（新規性・優位性）

今までにない手法で、測定結果を作業者へ分かり易く表示可能とする。

想定するライセンシー像
（保有技術や事業領域）

例えば、レーダー探査機による路面下空間をARデバイスで容易に確認して、水道漏れ工事を効率化する。

実施例

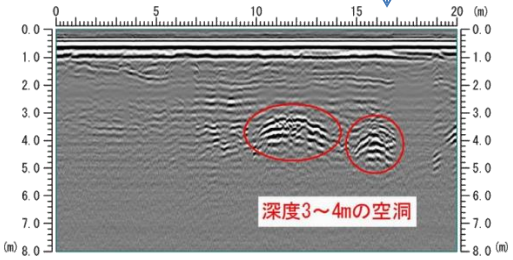
従来の路面下レーダー探査結果確認方法

工事写真例(株式会社ウォールナット社 HP より引用)

表示制御PC

測定結果

レーダー探査器例
(ジオメンテナンス社 HP より引用)



特許を応用した路面下レーダー探査結果確認方法

③AR表示

ARマーカー

①マーカー認識

②結果呼出

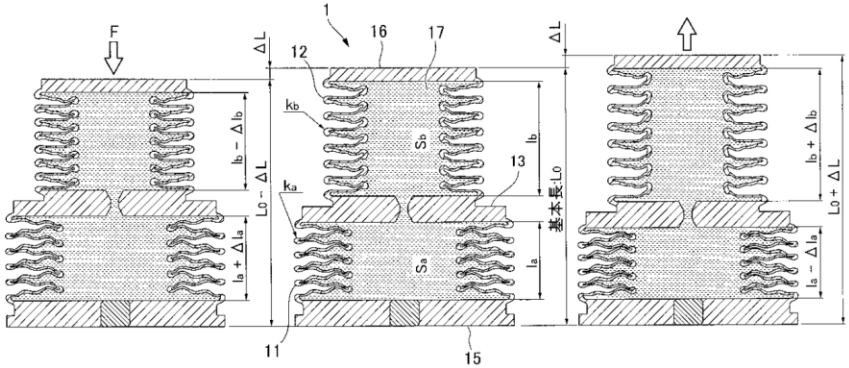
Ⓒ2021 Mitutoyo Corporation

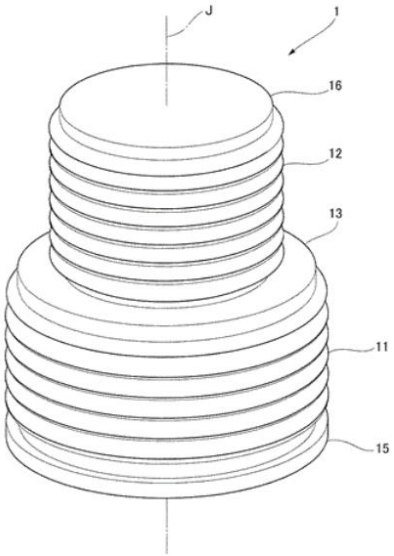
④シーズ名：「ベローズ式ダンパ」

特許第7128027号

利用シーン（展開可能分野）

密閉された内部に流体が満たされた径の異なる2つのベローズが、中間のプレートに開けられたオリフィスを介して、内部の流体が移動可能に接続されているベローズ式ダンパ。





発明の効果
（新規性・優位性）

小型で簡単な構造で、対象部材の振動を減衰させることが可能。従来のピストン方式で発生した液漏れや摺動摩擦が発生しない。

想定するライセンシー像
（保有技術や事業領域）

例えば、地震による構造物の振動を減衰させるダンパーとして適用可能。